日本共産党 和歌山市会議員
ひめだ高宏ニュース
NO.1353
'21.8,24

ザワザワする8月の終わり

8月の最後の1週間は、夏休みの宿題をしてこなかった子ども時代に戻って、気持ちがザワザワします。今年は雨続きでテニスをする日も少なく、コロナ感染の広がりにも気がめいりました。ここは気持ちを切り替えて、元気に9月を迎えましょう。と、ここまで書いた所で教育委員会から「夏季休業の延長について」通知文書が届きました。8月31日まで延長とか。クーラーの設置で夏休みは短縮（8月24日まで）されているとのことです。知らんかった?!

今年はリモートで 共産党全県議員研修会

8月20日（木）午後、日本共産党和歌山県地方議員・候補者研修会が開かれました。紀南、紀北、北部の3地区、3会場にわかれたリモート会議です。県委員会もリモート会議に慣れてきたようで、スッキリ進行でした。今回は、総選挙の取り組み、国保料金問題、コロナ禍の議会活動について交流しました。

コロナ対策・県議団の申し入れ

8月23日（月）日本共産党和歌山県議団が県教育長に提出した「新型コロナ感染症第5波のなかで新学期を迎えるにあたっての緊急申し入れ（第4次）」の内容は、次のとおりです。

日ごろから、児童、生徒の教育を守るため、ご奮闘いただいておりますことに敬意を表します。さて、小中学校や高校、特別支援学校でも2学期が始まろうとしています。今年は新型コロナ感染症の第5波が収まらないなかでの学校再開であるため以下の点について緊急に申し入れるものです。

記

この間、子どもたちへの感染も拡大していることから、新学期を始めるにあたり、

フツーの人々 <1136>

横浜市長選確定得票

当 506,392 山中竹春 無新 国
325,947 小此木八郎 無新
196,926 林 文子 無現
194,713 田中康夫 無新
162,206 松沢成文 無新

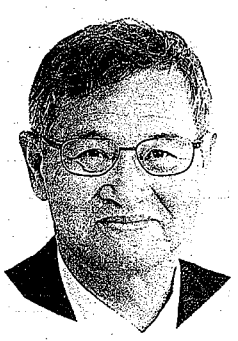
今週のフツーの人々

（その299）

スガ首相の「謙虚」

8月23日の夕刊各紙はスガ首相が横浜市長選で支援した小此木元国家公安委員長が市民と野党の共同候補の山中氏に大差で敗れた結果に対し「大変残念な結果だったが、謙虚に受け止めたい」と述べ、自民党総裁選について「出馬するのは当然のこと」だと、変わらない意欲を示したと報道。

IRカジノを推進しているスガ首相がIR反対を掲げた小此木候補を支援したことやスガ政権のコロナ対応についての批判が敗因だと「謙虚に受け止め」れば、今までと違った対応になるのは当然です。が、スガ首相の「謙虚に」という言葉は単なる飾りに過ぎないのではないかと私は思います。繰り返される緊急事態宣言やコロナ禍でのオリ・パラ強行の安全安心などスガ首相の言葉には髪が入っているようです。



ひめだ高宏

って抗原検査キット等を活用してすべての教職員や子どもたちへのスクリーニング検査を行うなど、学校へのウイルス持ち込みを防ぐ対策を実施されたい。以上

日本共産党県会議員団 知事への申し入れ 第6次

日本共産党和歌山県議団が8月3日、県知事に提出した「新型コロナウイルス感染症に関する緊急申し入れ（第6次）」の要望事項は、次のとおりです。

1．感染が急拡大している和歌山市や紀北地域では無症状者への社会的検査に取り組むこと。その際、特に大阪府との往来が多い地域や事業所には重点的な検査を行うこと。

2．デルタ株ではワクチン接種済みの人でも感染することが多いと言われており、5月に実施したように高齢者施設の職員への検査を強化するとともに、保育園や小中学校、学童保育、障害者施設等の職員についても検査強化に取り組むこと。

3．12歳以上の子どものワクチン接種については、基礎疾患のある子の重症化を防ぐなどの長所と、副反応の発生率が高いことなどの短所があることを理解したうえで各家庭で判断できるよう情報提供に努められたい。【以下、旅行に関し2項目要望しています。】

こんにちは日本共産党です

命を守ることを最優先に

日本共産党の志位委員長は8月19日、国会内で記者会見し、新型コロナによる感染爆発、医療崩壊が深刻化するもとで、政府がとるべき対応として、①症状に応じて必要な医療をすべての患者に提供する、②感染伝播の鎖を断つために大規模検査を実行する、③パラリンピックを中止し、命を守る対策に力を集中する1の3点にしぼったスガ首相あての「コロナから命を守るための緊急提案」を発表しました。

志位委員長は、重症患者や重症化リスクの高い患者以外は「原則自宅療養」とした政府の方針を撤回し、宿泊療養施設や臨時の医療施設などの大規模な増設・確保を図ることや医師・看護師の確保のためにすべての医療機関への減収補てんと医療従事者の待遇改善が必要だと指摘しました。

潮流

（21年8月20日赤旗）

病人には最良のものを1。あのナイチンゲールが看護の献身にめざめたのはクリミア戦争時の野戦病院でした▼当時の傷病兵は不潔な床に寝かされ、戦傷ではなく感染症で多くが命を落としていました。ナイチンゲールが衛生管理を徹底したことで死亡率は大幅に低下。「クリミアの天使」と呼ばれました▼いま日本で野戦病院を求める声が全国に波及しています。それだけコロナ感染が爆発的にひろがり、病床がひっ迫しているからです。都内では感染した親子3人が自宅で療養中、40代の母親が死亡。千葉では感染の妊婦が自宅で出血。搬送先が見つからず、赤ちゃんが亡くなるなど悲惨な例が相次いでいます▼命を救うあらゆる手だてを。国や自治体が全力を注ぐときです。ところがスガ首相や小池都知事はどうか。緊急事態宣言下、デルタ株急拡大さなかの五輪強行を反省もせず、この危機のなかでパラリンピックまで開こうと。押し付けるのは自己責任です▼ニュージーランドのアーダーン首相は1人の感染者確認で全土ロックダウンを決めました。実行の意味を自身が理解している、何のためにやるのか国民に説明できる、その前提があるからこそ厳しい措置も受け入れられるといいます▼医療の現場は戦場さながらの状態です。「天使とは美しい花をまき散らす者ではなく、苦悩する者のためにたたかう者である」。ナイチンゲールが残した言葉はいま政権の姿勢にも向けられています。国民の命を守るため、たたかうつもりはあるのか。

しんぶん赤旗 日刊 3,497円/月 日曜版 930円/月